

04 活動情報をわかりやすく伝える 広報・情報発信

・広報はりま まちアド通信（毎月）



・noteにてブログで発信（右記QRコード）



播磨町まちづくりアドバイザー 令和3年度活動報告書

05 計画づくりや事業運営委員会でのアドバイス 委員会・審議会への参加

- ・播磨町教育振興基本計画検討委員会
- ・第3次播磨町生涯学習推進計画 検討委員会
- ・空家等対策協議会
- ・はりま風薫るフェスタ運営委員会

職員より

住民グループ堀江さん

自治会連合会
ごみ課題PJ
などを一緒に
進めました！

令和2年度から始まった「まちづくりアドバイザー制度」ですが、行政の考え方だけでなく、民間の力を役場の内側から発揮するという画期的な仕組みだと思います。特に自治会等の地縁組織については、地域でもなく、行政でもない中間的な立ち位置からのアドバイスにより、両者をつなぐ重要な役割を担っています。例えば自治会の手引き作成プロジェクトやごみ課題プロジェクトでは、自治会長たち自身が我が事として話し合いを進め、課題解決に取り組みました。しかし活発な意見が出るようになることで、時には終着点がわからなくなることもありましたが、それも含めて自主的な議論であり、文字通り自治としての活動が進んでいます。

本町では来年度から「協働のまちづくり」を進めますが、すぐに出来るものではなく、まずは寄り添い伴走しながら、すきまを埋める丁寧なコミュニケーションが必要だと思います。そのためには地域でも行政でもない中間的な視点でアドバイスができる存在は、これからはますます重要になると思います。庁内においても、他自治体の取り組み紹介など、新しい風を入れてもらっています。それにより、職員が新しい視点を持てることで、今後の地域との協働のきっかけになると思っています。



播磨町まちづくりアドバイザー（企画グループ内）
〒675-0182 兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号
電話番号：079-435-0356（内線：120）
メール：machiad@town.harima.lg.jp

播磨町まちづくり
アドバイザーとは

播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズにより細かく対応するため、令和2（2020）年度からまちづくりの専門職員として「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援し、地域力の向上を図ってまいります。

01 まちづくり元年にむけて 播磨町の協働のまちづくり施策の検討

播磨町「協働のまちづくり宣言」

播磨町は令和4年に町制施行60周年を迎えます。令和4年をまちづくり元年と位置づけ、これからのまちづくりに向けた「協働のまちづくり宣言」を出すこととしています。令和3年は宣言に向けて、庁内でのワーキング、地域住民が集まる播磨町みらい会議、協働のまちづくりに関する研修会などを開催しました。

① 播磨町みらい会議



協働のまちづくりの推進を目的に、地域、学校、地域活動、職員など様々な立場の方々ともまちづくりについて話し合いました。例えば、播磨町はまちの動きがわかりにくい、地域活動への参加のきっかけがなくなりつつあるなど、それぞれの視点から播磨町のこれからのまちづくりについて話し合いました。

播磨町みらい会議：4回開催 ※2021年10月～2022年2月

② 庁内での検討ワーキング



協働のまちづくりを考えるにあたって、地域や学校の現状の整理や課題抽出を庁内ワーキングで行いました。会議は常にホワイトボードに可視化しました。

庁内WG：6回開催
※2021年5月～2022年1月

③ 協働のまちづくり研修会



職員、議会のみなさんと明石市の事例から協働のまちづくりについて学ぶ研修会を開催しました。合計50人の参加がありました。

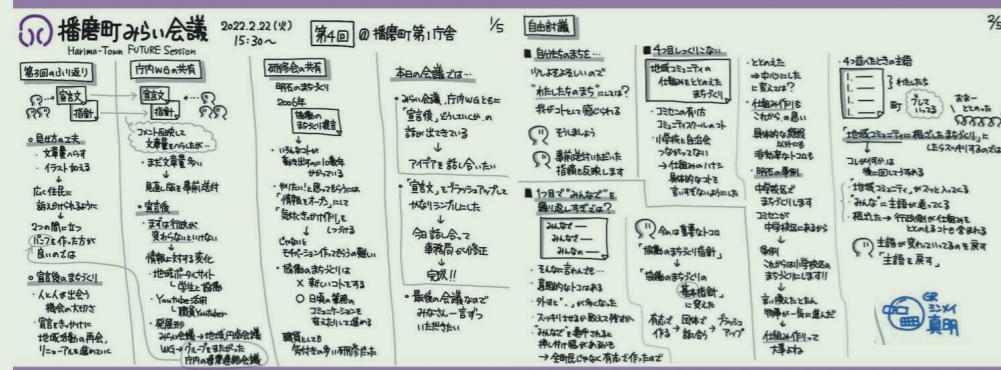
2月18日開催
講師：柏木登起さん / 一般財団法人明石コミュニティ創造協会

④ 活動補助金、行政からの情報発信の見直し

より活動しやすい環境づくりのため、新たな補助金制度の創設や、広報はりま等の情報発信ツールの見直しを進めました。今後、YoutubeやSNSの活用に積極的に挑戦する予定としています。

議論の可視化のためのグラフィックレコーディング

播磨町みらい会議では、会議のプロセスがわかるように、地元住民の方にグラフィックレコーディングをお願いしました。これらはすべてホームページで公開しています。



協働のまちづくりの議論の経過は播磨町ホームページに公開しています。以下のQRコードからアクセスできます。



02 補完性の原則を意識して単位自治会から町全域まで 地域コミュニティのこれからを一緒に考える

S 自治会単位でのサポート

令和3年度は単位自治会からの相談が増えました。会計相談や役員選任の方法や引き継ぎ支援などがあり、自治会の役員会や班長会に出向きながら、個別の相談対応を進めました。いくつかの自治会ではLINE公式アカウントを立ち上げるなど、新しい情報共有の方法を試すこともありました。

個別支援の内容

- ・自主防災組織の位置づけの見直し（規約見直し）
- ・防災に関する取り組み支援
- ・ごみステーション管理のルールづくり
- ・自治会内での情報共有（公式LINEの立ち上げ）
- ・自治会の財産管理、わかりやすい決算書づくり
- ・役員引き継ぎの支援

M コミセン単位でのサポート

○ 防災と福祉（4つのコミセンで研修を開催）

地域の防災活動を進めるために自治会長、自主防災組織、民生児童委員があつまる研修を開催しました。研修後にいくつかの自治会が防災の取り組みをはじめました。



○ まちアドおしゃべり会

気軽に相談できる場として、11月からまちアドおしゃべり会を開始しました。週に1回町内のコミセンを回ることで、相談しやすい環境づくりを進めました。



野添コミセン：12人 東部コミセン：5人
南部コミセン：5人 西部コミセン：3人
※2021年11月～2022年3月の参加者

L 町全域でのサポート

○ 自治会連合会運営支援

45自治会の連合体である自治会連合会の役員会や研修会のファシリテーションなどをおこないました。できる限り自治会長同士で話し合うことを心がけました。

○ ごみ課題プロジェクト

研修会などでの意見交換の結果、自治会連合会にごみ課題に特化したプロジェクトチームを立ち上げ、計5回の会議を開催しました。プロジェクトチームでは、会議の進行、報告のまとめなどを担いました。



プロジェクト会議：5回
町長等との意見交換：2回
※2021年8月～2022年1月に実施

03 みんなで考え、みんなで話す 研修会・意見交換会

講師

- 11月2日 役場行政評価研修「Harima to the Future とこれからの播磨町」
- 1月16日 宮の裏自治会 自主防災会意見交換会
- 2月19日 南部コミセンわくわく地域づくり塾「手書きマップで地域再発見！」

自主勉強会

- 4月21日 vol.05 播磨町の公共施設について part2
- 7月20日 vol.06 ゲスト：神戸市職員 秋田大介さん「秋田さんの仕事と活動」
- 12月22日 vol.07 ゲスト：高砂市職員 石本玲子さん「公共施設マネジメントってなんだ！？共感を生み続ける進め方」